

永平寺貫首 丹羽廉芳禪師さま御遷化

大本山永平寺貫首・丹羽廉芳禪師さま（曹洞宗管長・横浜善光寺留学僧育英会名誉顧問）が九月七日午前一時十五分、老衰による心不全のため、静養先の静岡市・洞慶院でご遷化になった。八十八歳だった。速夜は十二日午後六時から、密葬は十三日午前九時から、いずれも福井県・大本山永平寺で、宮崎奕保新貫首の導師により営まれた。

明治三十八年二月二十三日、静岡県修善寺町の生まれ。十二歳の時、洞慶院の丹羽仏庵和尚について得度し、二十二歳で仏庵和尚の室に入って伝法。東京帝国大学文学部印度哲学科を卒業後、京都・紫竹林学堂に掛搭し、内地留學生として大谷大学で天台学を学んだ。

永平寺本山僧堂を修了。静岡県清水市の一乗寺に住し、洞慶院専門僧堂開單とともに宗乗担任講師となる。清水市の龍雲院住職を経て、洞慶院住職に転任。昭和三十五年六月、師の仏庵和尚の後をうけて東京・西麻布にある永平寺東京別院の監院に就任し、本堂、庫



裏、さらに戦災で焼失した大観音を復興した。

昭和五十一年六月、大本山永平寺の副貫首に当選。六十年一月、七十六世秦慧玉貫首の遷化に伴い、宗制の定めに従って即日、永平寺七十七世貫首に就任した。在任中、中国の浄慈寺大梵鐘落慶法要を親修したのをはじめ、ローマ教皇ヨハネ・パウロ二世と相見、スリランカに坐禅堂を建立寄進し、中国・天童寺で如浄・寂円両禅師の建碑開眼法要を営むなど国内外を広くご親化。また、梅花流詠讃歌の発展に尽くされた。

生涯独身の清僧として膝下に多くの弟子を育てられ、著書に『みんな如来様だよ』『梅花開——わが半生——』などがある。

心からご冥福をお祈り申し上げます。

清久

永平寺
清久

